

ときを越え
受け継がれるもの

木造五百羅漢像（西岩寺）

Ⅱ 前沢区字下小路 Ⅱ

前沢区の旧町内を走る県道243号、丁切バス停から西に登った丘の上の西岩寺に、木造五百羅漢像はある。九世唯峯（くわいぽう）が衆生済度を念じ、江戸、京都、大阪をはじめ中部地方まで行脚して寄付を募り建立したもので、京都で彫り上げたものを大阪から船で運んだといわれる。旧羅漢堂前の石灯籠などの記述から、享和年中（1801～04年）に製作が始まり、文化2年（1805年）に完成したと考えられている。

旧羅漢堂に安置されていた五百羅漢像だったが昭和24年、堂の火災により28体を残し焼失。その後は本堂で保管された後、二十一世超越禪師により昭和50年に建てられた新羅漢堂に奉祀され、その保存が図られている。翌51年には旧前沢町の文化財に指定された。

人々の貧苦を救うとされる五百羅漢。往事から変わらないその瞳は、今の世を静かに見守っている。

※見学を希望する場合は事前に西岩寺（☎5426）までご連絡ください

広告



1 丁切バス停近くの参道から境内に上がると右手の階段の上に新羅漢堂が見える 2 新羅漢堂内に奉祀されている28体の五百羅漢像。表情や手の位置、まとう衣など一つとして同じものはなく、彫りは精巧を極め彩色も妙を尽くしている 3 小高い丘の上に立つ西岩寺の本堂と境内

